

大久保俊輝先輩の講義に参加させていただいて

産業開発青年隊同総会 会長 鈴木 浩明

令和8年7月27日(月)富士宮市役所7F特大会議室にて、昭和50年度産業開発青年隊中央隊修了大久保俊輝先輩の(公財)モラロジー道德教育財団創設100周年記念事業「つなぐプロジェクト」教師としての教育力・人間力を高める道德教育研究会に参加してきました。大久保先輩は、現在モラロジー道德教育財団特任教授として、道德教育のエキスパートとして、日本全国で講演をされています。

私と、大久保先輩との初めての出会いは、産業開発青年隊創設65周年記念大会の記念講演の時です。この時私は、第一回目の同窓会会長として指名をされ、出発をした時でもあります。この時には、まだ他の大学の教授であり、夏休みに、大学生と、障害のある児童とともに、富士登山を行われており、これを材台にして、記念講演をしていただきました。富士登山を行うと様々な、場面に遭遇します。また、障害のある人を連れての団体行動ですから、なおさらだと思います。その中で、大学生に、様々な判断をさせながら、障害のある児童を事故なく登下山させ、両者とも、目的を達成し、感動を得るという、実践教育のすばらしさを講義していただきました。

私が、大久保先輩がすごいと思うことは、まず、産業開発青年隊を中央隊1年次で修了されたことです。産業開発青年隊では、全寮生活、集団教育がなされていました。1年次ですから、上級生の様々な指導の下、行動し生活をしていきます。その中には、かなり理不尽なこともありました。管理者養成学校の駅前で大げな声で歌うことの原点は、産業開発青年隊の専売特許でした。1年次ならば必ず受けなければならない行事のひとつでした。まは、何か、間違いをおこせば、竹刀でたたかれる、連帯責任で、砂利の上で、正座をさせられる、本栖湖や、河口湖まで駆け足で往復するなどなど、数えればきりはありません。そのようななかで、大久保先輩は中央隊を修了されました。長澤先生とも色々お話をされたそうです。それらの経験を通じて、教育者を目指すきっかけとなったそうです。そして、通信教育課程を卒業され、教員免状を取得されました。

教員になってからも、波乱万丈な日々を送られたようです。左遷されること6回。家庭では、ご子息が3人いらっしゃいますが、3人とも不登校になってしまったそうです。それらを乗り越えて、現在の活動につながっていると講義の中でお話になりました。

考えてみれば、道德とは、簡単に言えば、人とどのような気持ちで接すればよいか、どのような行動をすればよいかということだと思います。

人生の中で、様々な失敗を通じて、それを肥しにして、腐らず乗り越えること。それにより、自分自身の過ちを知ることになります。次は、どのように行動したらよいかを知ることができます。また、失敗をすることにより経験を積むことができますので、その知識を活用し、困っている人に手を差し伸べることができます。人に対して、やさしく接することができます。また、何が、正しいことであるか、何が悪いことであるか、分別がつくようになります。失敗は、怖いもの、恥ずかしいものという概念が現代の人の中に多く

あるのだと思います。ですから本人はもとより、親兄弟を含め、周辺の人々が失敗をしないようにさせないようします。果たしてそれが正解でしょうか。ですから「石橋をたたいても渡らない」それがよい判断であると考える方や、どちらかを選ばなくてはならない場面において、人に頼ってします方がいます。しかし、本当に大切なことは、失敗をしてもそれを解決する方法を知ることだと思っています。お釈迦さまも、因果応報といわれています。原因があって、結果が生じ、さらにその先に報いがある。このことを知ることが、非常に大切だと思います。

今回の大久保先輩の講演に参加させていただいて、このように感じました。夢を持ち、志を立て、信念をもって、失敗を恐れず、努力精進すること。このことに多くの方々が気づくことができれば、日本も変われると思います。今回出席された先生方も、テクノロジーではなく、実践をいかに行うかを、大久保先輩より教えていただいたのではないのでしょうか。

講演を終えた翌日に、大久保先輩を新富士駅まで送ってきました。車中、先輩の熱い話を聞き、その後、お礼のラインが来ましたので、私は、大久保先輩に「日蓮聖人の生まれ変わりですね。世の中が荒れた時に偉人は蘇るといいです。」とラインをいたしました。

「恐れ入ります。島流しが左遷かもしれませんね。多謝。」とラインが返ってきました。

ありがとうございます。

